

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272200157		
法人名	有限会社 グループホーム翁頭		
事業所名	グループホーム 翁頭		
所在地	長崎県五島市野々切町253番地1		
自己評価作成日	令和3年6月17日	評価結果市町村受理日	令和3年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 3年 9月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族が遠方におられる入所者もおりsns(Instagram)を通してホームでの生活を発信しています。新型コロナウイルス感染予防のため面会ができない状態が続中で施設内での楽しみを見つけながら生活ができるように支援しています。食事面は手作りにこだわってなるべく温かい食事や手作りおやつを提供できるようにしています。その季節の花を飾ったり目で見て楽しめる空間づくりにも心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは南に小泊浦、西に五島鉾山、東に鬼岳を臨むことができ、自然豊かな海と緑に囲まれている。職員は理念に沿った支援に努めており、入居者とゆとり話をする時間を大切にしながら入居者の思いに寄り添い、望む生活が送れるよう支援している。運営推進会議では詳細なホームの実情や取り組みを伝えることで地域や家族のホームへの理解を深めると共に、家族の安心に繋げている。管理者は職員間のチームワークを大切にしており、日頃から職員との関りを多く持つことで相談しやすく働きやすい職場づくりに努めている。毎月開催する職員ミーティングにて入居者の状態把握を行い、入居者の能力を活かした介助方法を検討するなど自立に向けた支援に取り組んでいる。入居者の楽しみや喜びを第一に考え入居者本位に検討し、家庭的で温かなホームであることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時にみんなで読み上げをしている	ホームの理念は各棟の食堂に掲示しており、朝礼時に読み合わせをすることで理念の周知を図っている。毎月職員ミーティングの際に理念に沿った支援ができていないか確認し、入居者本位に検討することで理念の実践に繋げている。日々の会話の中から入居者の思いを聞き取り要望に沿って支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のためほとんど外出する事ができません	ホームは自治会に加入しており、地域の行事案内等は町内会長よりお知らせがある。コロナ禍以前は地元の小学校のもちつき大会や相撲大会に参加しており入居者の楽しみとなっていた。地域の方より認知症についての相談があった際は、ホームより介護の仕方・介護サービスの種類・入所手続きの説明を行うなど親身になり対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に向けての情報発信はできていません、ご家族や近所の方の認知症についての相談等があれば話をきいたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの感染状況に応じて開催できないときがありました、開催時は意見交換ができるように心がけている	運営推進会議には行政・自治会長・民生委員・老人会会長・家族が参加し、活発な意見交換の場となっている。運営推進会議ではホームの実情・職員ミーティングでの検討事項・消防訓練・消防設備検査・現状の面会制限等詳細な報告があり、ホームの理解を深めている。ホームより有効な消毒剤の生成方法を伝えるなどコロナ感染予防に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係はできている	市町村担当窓口へ運営推進会議録を郵送しホームの実情を知ってもらおうと共に、ホームより働きかけを行い、有効な情報等あれば情報提供してもらえるよう協力関係を築いている。ホームの運営に関して不明な点があれば、長寿介護課へ電話にて相談を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会には(コロナ感染予防の為)参加できていない、ユニットで言葉による拘束には注意するよう話し合うようにしている、玄関の施錠はしていない	ホームは「身体拘束廃止検討委員会」を3カ月毎に開催し、管理者・ケアマネージャー・各棟リーダーで、身体拘束状況・事故報告書・ヒヤリハット・言葉の拘束について検討を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は会議録を閲覧し共有を図っている。入居者の行動を制限せず、一緒に外に出たり散歩を行うなど寄り添うことで、入居者の安心に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われる状況がないかを常に注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日症生活自立支援事業や成年見制度について、学ぶ機会をもうけるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約、法改定の際には書面や口頭で家族に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は聞くように面会時等で声掛けしているが外部者へ表せる機会はまだない	家族が面会に来訪した際に話をする機会を設け、入居者の状況・生活の様子を伝えることで要望が言いやすいよう努めている。入居者との日頃の会話の中から本人の要望を聞き取り、口頭での申し送りとし送りノートにて職員間で共有を図り、運営に反映させている。家族より入居者が好む嗜好品の差し入れがあり、本人の希望時に提供できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案をミーティング等で聞くようにしている、必要に応じて個別で聞いたりしている	管理者は日頃から職員との関りを多く持つことで相談しやすく働きやすい職場づくりに努めている。毎月の職員ミーティングは活発な意見交換の場となっている。職員の提案にて入居者の食事形態や入居者の能力を活かした介助方法、整理整頓方法の検討を行うなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況は努力、やりがいなどは把握しているが、向上心を持って働ける様な環境づくりまで実行できていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの力量を把握しているが、研修に参加できる体制が職員不足の為、整っていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会の参加もできていない、今後、勉強会などには積極的に参加できるようにしていきたい		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、担当職員は特に入所者との信頼関係の構築に努めている、要望を聞きながらできないところを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意見要望には耳を傾けているがほとんど家族の面会ができておらず(面会制限の為)必要に応じて電話でのやりとりをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にあたり必要なサービスを提供できるように情報収集して対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも話し合える関係で信頼関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回入所者の様子を手紙に書いて送るようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会が減っており、電話や手紙でやりとりをしている	ホームはSNSを活用しホームでの生活の様子を発信したことで、家族の方より母の姿が見れて嬉しいとの喜びの声が聞かれている。自宅への帰省・墓参り・馴染みの商店での買い物・自宅周辺のドライブなどは入居者の希望があった際に職員支援で行っており、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士で座る席をかえたりして、話がしやすいようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも野菜を持ってくれたり、現在の状態を話したりかかわりを持っている方がおられます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方などはモニタリング等で話し合うようにしている、本人を第一に考えるようにしている	入居時に家族より生活歴等聞き取りを行い、本人が望む生活が送れるよう支援している。居室に訪問し、入居者と1対1でゆっくり話しをする機会を増やすことで入居者の意向把握に努めている。編み物が好きな入居者に職員が毛糸を準備したことで、台所たわしを制作されるなど以前行っていたことを思い出す機会となり、楽しみを持って生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴等は各棟にファイルに保管しており、必要な時にみれるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、その日の状態も含み把握するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を聞きながらホームでの生活を考えるように、本人と家族に情報収集してプランを作るようにしている	介護計画作成前に入居者・家族の意向を確認し、職員間でカンファレンスを行うことで現状に即した介護計画を立案するよう努めている。日々のケア記録に短期目標を記載することで、職員はサービス内容を把握すると共に、介護計画に沿った支援の実践に繋げている。介護計画の見直しは6カ月毎と入居者の身体状況、要望に変化が生じた際にも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は必ず記録に残すようにしている、モニタリング時に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態を第一に考え状況に応じての対応ができるように心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用があまりできていない、外出する機会も減っており、今後の課題となる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診もコロナウイルス感染予防のため、薬受けで対応できている、必要に応じて医師に相談助言をもらっている	入居前のかかりつけ医が受診できるよう職員が支援しており、主治医へ精神症状や全身状態など詳細な報告を行うことで適切な医療が受けられるよう支援している。週に1回訪問看護の来訪があり、入居者の健康状態の把握に努めている。昼夜共に入居者の体調不良時には主治医や訪問看護へ相談できる体制が整っており、入居者・家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日には訪問看護師の来荘にて状態の報告、相談ができており、必要に応じて処置などもしてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には情報提供書を作成して、情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、状況に応じて特別養護老人ホームの入所を検討したり、グループホームで対応できることを話し合いながら支援している、看取りの場合は医療機関と連携しながら対応している	家族へ入居時と重度化した際にホームが対応しうる最大のケアについて説明を行い、入居者・家族の意向把握に努めている。入居者・家族の希望があり、主治医・訪問看護の協力があれば看取りにも対応可能である。現在、重度化に対するの取り組みとして在宅酸素・点滴に対応可能である。訪問看護より重度化に対応する研修会があり職員は学びの機会としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変時や事故発生時に備えて、あまり機会はないが職員間でシュミレーションしたりしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時は3グループホームで協力体制ができており、必要に応じて応援を要請する、年に2回の避難訓練を実施している	近隣のグループホーム2事業所と相互に消防訓練に参加するなど有事における協力体制を築いている。ホーム内にパッケージ消火器が整備しており、職員はこばた電設より指導を受け使用方法の周知を図っている。昨年度の台風接近時には近隣の住民センターに一時避難を行うなど、入居者の安全確保に努めている。	自然災害対策に関する計画書を整備するまでには至っておらず、また、自然災害訓練の実施ができていない。昨年度の台風接近時に避難した際の経験を活かし、ホームの取り組みや必要な備品の見直し、職員の行動マニュアルなどを含め、現状に即した計画書を作成し、更なる入居者の安全確保に繋げていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の人格を尊重して優しい声掛けをするように心がけている	毎月の職員ミーティングで入居者の対応について話し合いの機会を持ち、日々の振り返りを行うことで人格を尊重したケアの意識付けを図っている。入居者への声掛けは、笑顔で方言を交えながらも温かな言葉になるよう努めている。排泄失敗時には、周囲にわからないよう静かに声掛けを行うなど、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の思いや希望を感じ取り、決定できる場所をお願いしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者のペースに合わせた対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡をみたりする時間を作ったりしておしゃれができるように声掛けをしている、身だしなみに気を使う方が何人かおられます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はなるべく手作りの食事、おやつを提供するようにしている、食べやすいように硬さや甘さなど考えながら作っている、食後はテーブル拭きやトレイ拭きなど入所者に手伝ってもらっている	職員は日々の会話の中から入居者の食べたいものを聞き取り、リクエストに対応することで食事が楽しいものとなるよう支援している。また、彼岸の時期には手作りのおはぎや団子、年末にはぜんざいパーティーを行うなど季節を感じる事ができ入居者の楽しみとなっている。毎食前に口腔体操を行い安全に食事が摂取できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスは一人一人食べる量を把握して提供している、水分摂取も飲みたがらない方にはすきな飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助している、口腔内の状態に応じてデンタルリンス等を使用している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パットの種類を増やしその人に合わせた排泄用具を使用するようにしている、なるべく布パンツを使うようにしている	排泄記録表で確認を行いトイレへ誘導することで、トイレでの排泄に繋げている。排泄間隔を把握しトイレへの声掛け回数を増やしたことで、リハビリパンツから布パンツへ移行した事例があるなど、自立支援に向けた取り組みを行っており、本人・家族ともに喜ばれている。昼夜でパットの種類を検討し入居者が快適に過ごせるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはヨーグルト、牛乳など下剤を使わずに出るような工夫をしている、下剤の使用だけではなく食事、水分量の摂取状況も確認している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はなるべく希望に合わせて対応している、入りたいときに入れるように声掛けしているが、曜日、時間は決めている	週に3回入浴を予定しているが、入居者より希望があった際はその都度対応可能である。本人が好む入浴剤やシャンプーを使用し、また、雰囲気づくりにも配慮し、会話を楽しみながら気持ちよく入浴できるよう支援している。浴室には浴槽に手すり・浴槽グリップ・シャワーキャリー・シャワーチェアがあり、入居者が安全に入浴できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を安定させるように日中の過ごし方を検討したり、居室内の環境を整えたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の情報はファイルに保管してすぐに関覧できるようにしている、服薬時は必ず二人以上で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや花見、散歩など気分転換ができるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で墓参りに家族と出かけたり、自宅へ帰ったりしている	コロナ禍である為、人が多い場所を避け外出先を検討することで感染予防に努めている。ひまわりやコスモスなど季節の花が見学できるよう少人数でドライブを行うなど、入居者の楽しみとなっている。ホームの敷地は広く、中庭や渡り廊下のベンチに座ると、花壇に植えてあるポーチカラーやパンジーを眺めることができ入居者の気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものは職員が買いに行ったりして、無くなったり、置いた場所がわからないことがあるので、お金は事務所で管理している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は職員がかけてから家族につないでいる、手紙のやり取りをされている方はいません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはわかりやすいように目印をつけている、五感を感じられるように朝はカーテンを開けて風を入れるようにしている、窓から外の景色をみたり、ゆっくりと過ごすスペースも確保している	リビングの掃き出し窓や腰窓からは海や緑など自然を臨むことができ、明るく開放的で家庭的な雰囲気がある。畳の間があり、また、廊下とリビングにはソファを設置し入居者が思いおmoiの場所で過ごせるよう配慮している。以前は、玄関にあるピアノを演奏されていた入居者もあり、楽しく過ごせるような空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにはソファが置いてあり気の合う仲間との会話を楽しむことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや写真など飾ったり本人が居心地よく過ごせるように工夫している	居室の腰窓からは暖かな日差しが入り明るい空間となっている。持ち込み品として、テレビ・ラジオ・家族写真などがあり居心地良く過ごせるよう支援している。居室はフローリングと3畳の畳の間があり、畳の間にはちゃぶ台が置いてあるなど、昔ながらの家庭的な雰囲気がある。掃除は毎日行っており清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内のタンスや棚などは本人が使いやすいような配置にかえています		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に声を出して読んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防のため地域との交流はほとんどできていません		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちに向けての情報発信はできていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの感染状況に応じて開催できないときがありました、開催時は意見交換ができるように心がけている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係はできている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会には(コロナ感染予防の為)参加できていない、ユニットで言葉による拘束には注意するよう話し合うようにしている、玄関の施錠はしていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修で学んだことを日々の業務の中で行われていないかを確認しあうようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日症生活自立支援事業や成年見制度について、学ぶ機会をもうけるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約、法改定の際には書面や口頭で家族に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は聞くように面会時等で声掛けしているが外部者へ表せる機会はもうけていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案をミーティング等で聞くようにしている、必要に応じて個別で聞いたりしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況は努力、やりがいなどは把握しているが、向上心を持って働ける様な環境づくりまで実行できていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの力量を把握しているが、研修に参加できる体制が職員不足の為、整っていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会の参加もできていない、今後、勉強会などには積極的に参加できるようにしていきたい		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネ、担当職員は特に入所者との信頼関係の構築に努めている、要望を聞きながらできないところを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意見要望には耳を傾けているがほとんど家族の面会ができておらず(面会制限の為)必要に応じて電話でのやりとりをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にあたり必要なサービスを提供できるように情報収集して対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には入所者の生活を支えながらできないところを見極めながら信頼関係を作るようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会がうすくなっている状況の中で、家族の話をしながらともに支える関係性をつくるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同郷の友人やなじみの人を把握しながらたまには自宅を観に行ったり外へ出かける機会を設けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士でのかかわりが増えるように気の合う仲間で会話が増えるように場所を作ったり同じ時間を過ごしてもらったりしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも野菜を持ってくれたり、現在の状態を話したりかかわりを持っている方がおられます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方などはモニタリング等で話し合うようにしている、本人を第一に考えるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴等は各棟にファイルに保管しており、必要な時にみれるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、その日の状態も含み把握するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を聞きながらホームでの生活を考えるように、本人と家族に情報収集してプランを作るようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は必ず記録に残すようにしている、モニタリング時に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態を第一に考え状況に応じての対応ができるように心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用があまりできていない、外出する機会も減っており、今後の課題となる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診もコロナウイルス感染予防のため、薬受けで対応できている、必要に応じて医師に相談助言をもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪看が来られ1週間の状態を報告し必要があれば受診したりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には情報提供書を作成して、情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、状況に応じて特別養護老人ホームの入所を検討したり、グループホームで対応できることを話し合いながら支援している、看取りの場合は医療機関と連携しながら対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は園長に連絡して指示をもらうようになっているが、状態に応じて救急車を要請している、応急手当などの実践があまりなく不安に感じる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時は3グループホームで協力体制ができている、必要に応じて応援を要請する、年に2回の避難訓練を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の個性を理解しながらわかりやすい言葉で話すように心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で自己決定できる場所はしてもらい、できないところを本人と話をしながら決めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を把握しながらゆっくりと過ごしてもらうように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かけるときは着たい服を一緒に選んだりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえで野菜の皮むきやトレイ拭きなど手伝ってもらっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供できていると思う、水分量は飲まれない方には好きな飲み物を購入して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯、自歯などそれぞれの状態に合わせた、ブラシや歯磨き粉など使用するようになっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表で確認しながらトイレの声掛けをしたり、排泄パターンを把握するようになっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表で確認しながら下剤の飲み方を調整している、食事、水分量も確認するようになっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は決めているが、入る順番などは希望に応じられるようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や体調面を把握して気持ちいい睡眠がとれるように昼間の過ごし方を検討している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬状況がわかるようにファイルに保管してすぐに見られるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からしている編み物や折り紙など楽しみながらされています、気分転換に少人数でドライブなどにもかけてます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	景色をみたり外へ出かける機会はつくっていますが、今のところ買い物など人が多くいる場所へは行かないようにしています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものは職員が買いに行ったりして、無くなったり、置いた場所がわからないことがあるので、お金は事務所で管理している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は職員がかけてから家族につないでいる、手紙のやり取りをされている方はいません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはわかりやすいように目印をつけている、五感を感じられるように朝はカーテンを開けて風を入れるようにしている、窓から外の景色をみたり、ゆっくりと過ごすスペースも確保している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにはソファが置いてあり気の合う仲間との会話を楽しむことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや写真など飾ったり本人が居心地よく過ごせるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内のタンスや棚などは本人が使いやすいような配置にかえています		